夕刊
磐城時報
十一日發行
編輯兼發行 印刷人 岡田弘成
印刷所 磐城時報社
發行所 磐城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金卅錢
廣告料一行十四字詰五十錢
日刊(日曜祝祭日)翌日休刊

平市本年度入營兵 二十一日奉告祭を執行

平市出身本年度入營兵の奉告祭は既報の如く二十一日午前九時から縣社子倉鍬神社で執行引きつゞき同十時半から市公會堂で官民合同歡送會を擧行する、町別の入營者氏名左の如し

▲長橋町 關内榮三、菅野光麟▲平窪 松崎昌平、小野勝夫▲田町 田邊孝平、小川勇五郎、永原政勝、須田行雄、佐藤直治▲研町 佐々木正己、高木三郎▲古鍛冶町 直田久男▲紺屋町 飯塚德治、國分秀男▲一丁目 武田禮治、森下良雄、富田芳郎▲二丁目 安田憲一、佐藤三郎、遠藤敏郎▲三丁目 高野正己▲四丁目 佐藤遠平、遠藤盛富、熊田清百澤易重▲五丁目 丸山勇造、渡邊農夫、瀧口末吉▲新川町 丹野幾之助▲材木町 池上義雄、佐竹正雄▲南町 渡邊三好、小沼惣次郎、鈴木正夫、西牧一己▲大町 高羽繁夫▲十五丁目 高田久壽▲道匠小路 石森勇▲仲間町 萩貞孝、若松義春、猪狩守▲鎌田町 君島敏雄、青木敏、鹿島幹司、鈴木繁彌▲上川原 猪狩一元、三浦清▲立町 大峰喜八郎、態田大造、松本七三郎▲爾宜町 鈴木昇好、佐藤正雄、金成英保▲舊城跡 中野春郷、佐々木顯夫、田中忠芳▲白銀町 草野堅治、吉田秀男▲北目町 猪狩壽也▲月見町 根本健兒▲揺挧小路 猪狩勝己、今田一己▲上平窪 今野三郎、阿部敏哉、薄葉光平▲中平窪 薄葉一馬、小野陽平、早川誠▲下平窪 鈴木竹雄、明智久馬▲中塩 矢吹誠榮、關場毅▲月見町 白土松美△田町 鈴木俊夫▲銀冶町 安政一▲番匠町 坂下三吉▲仲間町 森玉吉、佐藤福見▲揺挧小路 菅野春雄、高木忠孝△中平窪 福田延秋、明智正雄△中平窪 福田一雄 古鍛冶町 草野政夫△鎌田町 猪狩五郎△七軒町 吉田新一△堂の前 駒組朝光△揺挧小路 田島忠勝△鎌田町 岡田與平 南町 澤山行雄、高木政次郎△紺屋町 小川直一、△田町 金子達△新川町 阿部敬二△研町 古川豁△胡摩澤 助川全△立町 竹田秀太郎△堤の内 山本吉五郎△下平窪 矢吹利平△白銀町 須藤正孝△八幡小路 佐藤行一△下平窪 會川三郎治、△仲間町 佐藤健、吉田眞△南町 原野武夫、草野健△四軒町 横田尚友△中平窪 新妻光司 太田誠△五丁目 片寄織江△田町 高野健△材木町 藤崎正三郎△北目町 川島廣榮△紺屋町 西脇幸一△鎌田町 佐藤咲藏、寺門友已△彌宜町 小野幸次、△揺挧小路 藤原正七△上平窪 林清一

獻金二萬圓突破 事變以來市民の赤誠

支那事變發生以來市役所に寄託された國防獻金、恤兵金は既に四千九百圓を突破、さらに昨年八月應召軍人家族救濟のために設立した軍事後援會の寄附金は一万六千圓に達し、中には可憐な小學兒童の小遣錢、川炭拾ひの貧しい家庭からの獻金もあり市民の溢るゝばかりの赤誠に係員を感激させてゐる、尙いままでに戰地に送られた慰問袋は愛國婦人會の分を合せると實に五千個を遙かに超えてゐる

好間村會

好間村會を十五日午前十時召集、平商講堂建

馬目伍長 十四日無言の凱旋

戰病死を遂げた平市二丁目出身看護兵伍長馬目三郎君の遺骨は十四日午後六時二十分着列車で無言の凱旋することに成つた、尙市葬は二十日頃行ふ豫定で市役所で準備を進めてゐる

慰安會は中止

市聯合青年團では市内出征軍人遺家族慰問の催しを行ふ豫定であつたが都合で中止となつた

寫友會展

磐城寫友會第五回展覽會は既報の通り十二、三兩日午前九時から午後五時までマルトモホールで開催、會員本年度の力作を出陳する、入場無料で一般の來觀を歡迎

下級生はイナゴ取り 磐女生の銃後報國運動

縣立磐城高女三、四年生は過般平市及近村に於ける應召軍人遺家族のため、二日間に亘つて稲刈りを奉仕、銃後婦人の勤勞作業を實施して關係者から感謝されてゐるが、今度は一、二年生五百名が上級生に負けないで銃後の奉仕を致しませうと十一日數班に分れ、平窪、好間、飯野、神谷等各方面で蝗取りを行ひ國防費に獻金することに成つた

山口少佐寄附 講話會謝禮金を

磐城中學配屬將校山口武臣少佐は十日古河炭礦で精神講話をして贈られた謝禮金二十圓をそのまゝ平市軍事後援會へ寄附した 尙市内柳町遠藤源衛氏は金三圓を同じく寄附

職業指導週間

十日から行はれた全國職業指導週間に當つて、平紹介所では十一日石城郡内各小學校に對して趣旨徹底を圖るべくポスターを配布し、學校側の希望に依つて紹介所員を派遣隨時講演會を開くことになつた

優良出稼ぎ人表彰

職業指導週間に縣職業紹介事業協會では十日から十六日まで實施される全國職業指導週間に當り出稼ぎ奬勵の目的で十日永年勤續優良の從業員十四名を表彰したが地方關係者は左の如し

◎陸軍造兵廠東京工廠、荷路夫村字榎町絲川パル(廿五年)◎磐城炭礦、湯本町三函岩崎義美(十三年)◎入山採炭、安達郡戸澤村武藤清治(四年)◎古河炭礦、平市紺屋町三九桶井ふよ(二十年)◎昭和人絹錦工場、相馬郡飯曾村佐藤好一(二年)

八百屋さんの美擧 小川家に寄する同情 本社からも金五圓贈呈

夫は戰傷を負ひ五人の子供を抱えて過度の心勞から失明か開眼かの瀬戸際にある銃後悲話の女主人公、南町小川きくさんに對する同情は漸く熾烈となつて、けふ十一日南町七八青物商齋藤六之亟さんは本社を訪れ不幸な小川さん一家へとて、子供の定子さん(七)正吉さん(一〇)の名で金一圓を寄託して立ち去つた尙本社でも十一日金五圓を贈ることになつたが同日受付の義捐金は左の如し

十一日分
金五圓 磐城時報社
金一圓 南町 齋藤定子
齋藤正吉
金五十錢 田町 野澤テル子
金一圓 紺屋町 加納活版所

繭品評入賞者

福島市外渡利村蠶祖神社奉納品評會は去る七日開かれ全縣下から繭三千五十五点、桑苗十三点、眞綿三点出品されたが、石城郡下では左の通り入賞

△繭(春蠶)渡邊村鈴木龜之助△繭(夏秋蠶)永戸村合戸組合

教員競技終る

市内四小學校教員の休育大會は十日終了したが優勝は左の如し

△野球、庭球―第一△卓球―第四△籠球―第三

不良少年檢束

平市草野某(一五―假名)は十日午前十時頃双葉郡浪江町青年學校附近を短刀懷中に徘徊し生徒に喧嘩を吹きかけてゐるところを浪江署員に檢束された

同人は最近同地で線路工夫をしてゐる父を訪ねて行き過般同校運動會見物中某生徒と口論したことから仕返しすべく待ち合せてゐたもので說諭を加へ釋放された

石島一德齋翁逝く 地方に於ける陰陽學の大家

平市白銀町石島一德齋翁は八十九歲の高齢で十日午後四時二十分自宅に於て長逝した

同氏は嘉永三年茨城縣新治郡安飾村に生れ、快風舘に入り水戸學を修め、傍ら武道に精進、十三歲で陰陽學、國學を學ぶ、水戸藩元治甲子の亂起るや戰壓を馳驅して謀計奇策を進言、戰功多かつた、明治維新後陰陽學の研究に力を注いで同九年陰陽學專門遁甲の秘術皆傳を允許され、同十二年神道教師となり東京太眞壇教社の教授に任ぜられ神の道を宣布、同二十年福島縣支部長に轉じ平町に教務廳を設置大正九年神道扶桑教管長から權大教正を授けられ昭和三年大教正に陞つたが現在は嗣子德長氏に其の位を讓り自分は顧問となつて悠々自適の生活を送つてゐた

葬儀は十三日午後一時自宅出棺市營火葬場で神式により營むと

夏井川に投身

平市南町無職柴辻學隨(四五)は十日午后四時頃市内平神橋から夏井川に投身、溺死せんとした處を附近民に救助された、原因は持病の神經病を苦にして

無免許運轉罰金

田人村大字黒田字一の倉相澤作八氏方自動車運轉手澤田松男(二〇)は去月十九日無免許で植田町へトラックを運轉したこと發覺十一日平區から自動車取締り違反で略式罰金十五圓に處せられた

天氣豫報

今晩も明日も北西の風晴一時曇

人と會【19】 平釣友會(C)

最初の釣友會長には曾我直治氏が選ばれた、曾我氏は第一小學校の校長だつたが昭和八年秋退職してつれ〴〵のまゝに釣に入門した、釣といふ娯樂は誰でもさうだが一度始めるともう決してやめられない、謹嚴な曾我先生も、遂に病みつきとなつて、セツセと仁井田へ出漁、あまり巧くはない殿樣釣りを大いに發揮したものだ、そこで釣士仲間にも顏が廣くなり、なんと云つても當時の釣士中の名士であり、會長は曾我先生にと云ふことになつたものらしい、この時の役員は曾我會長以下

副會長檜山謙、鈴木末吉、會計白土喜伯、庶務金古政通、幹事須藤鶴之助、林豐吉、菱沼倉次郎、多田井笑次郎、宮崎善太郎、大村七郎難波正

の諸氏で、いづれも當時竿を持たせては一癖も二癖もあるこの人達が出漁すると、仁井田の魚も、カヽリの中へでも逃げ込んでしまふやうな代表的釣士である。

曾我會長は就任一年足らずで九年十月郷里白河へ轉任され、あとの任期を多田井笑次郎氏がつとめることになつた多田井氏は當時、一といつて二と下らない位の釣上手で、この方面に對する研究心の強いことも無類、釣に關するあらゆる文献を漁り、月々發行される釣雜誌にも必らず眼を通し、現在でも理論家として隨一である、先年令閨を失つてからは、商賣の方が忙がしいので、プツツリと釣をやめ釣友會も退會したが、相變らず机上の釣遊をつづけて居る

十年三月の役員滿期改選で平商業學校書記の猪狩淸氏が會長となつた、猪狩氏はかつて平、郡山等の警察署長をつとめた人、サーベル時代にはまさか釣はやらなかつたが、昭和七年夏退職して悠々自適の生活に入り、翌年から餘暇法としてこの道に入り、九年の夏頃仁井田でボラ三貫匁を釣りあげてからが病みつきとなつて今では天晴れ會長の貫祿を備へるほどの名手となつた、今年三月の滿期改選も再選されてゐる、筆者などと同じく週に一度の日曜を首を長くして待つサンデーアングラーで、どうも今年ほど日曜に雨の多いことはないと大いにコボしてゐる、競釣會のときなど會長自ら案内狀の封筒書きをする程會のためには熱心家で、お蔭で平商校では服部校長始め中村、武川、宮澤、室原の諸先生、出征中の麻原淸水先生まで會員になつてゐるといふから凄まじい

(つゞく)

戰地通信

○○地占領めざし 生還を期さず

市內材木町出身　榮花茂君

敵も大軍を各所に配置し新手々々と交代して頑強に抵抗するので本當に愚戰苦闘して居る有樣です、廻上部隊も軍艦旗の下に一死報國の活躍は本當に內地の皆樣に見せたい位であります。砲艇隊も今日までに幾多の戰死傷者を出して戰友を失ひましたが、これも大君の爲め、大日本帝國のためと思へばこそ、私も戰地に於て幾度か男泣きに泣きました。○○地占領は銃後の皆樣も期待されて居るものと思つて居ります、私達も○○地占領めざして揚子江の濁流を遡江、死物狂ひの活躍にて肉迫して居ります、海軍機も敵陣地日前に於て物凄く活躍、爆撃を致し音聲は天地に轟き壯烈さ何とも云はれません、武運があつて○○地占領し軍艦旗を翻へしたいと思つて居りますが、今度は生きて歸らぬ覺悟で立派に軍人の本分を全うする考へで居ります。先般故郷の銃後會より慰問袋を頂きまして誠に有難く厚く御禮を申上げます、揚子江上流最前線で不便の故か、地方の慰問袋は宮城縣より一個頂いた外には貰ひません、昨年の上海戰線にては十六個も各縣より貰ひましたけれども。市役所の草野さんにも宜しくお願致します、又海軍部の方々にも宜しく御傳言下さい。何分共に留守中は年老ひたる兩親を御願ひ致します、何んと云つても戰地に於て故郷の樣子の御便りが一番嬉しく又樂しく思つて居ります、お暇がありましたら御便り下さい、私も戰死を遂さぬ限り戰地のニュースをお知らせ致します。（岩立淺藏氏宛）

一日一言

野澤武藏

湯本町の溫泉復活計畫が着々進められ、豫定湧出量に達せず町民が盛んに氣を揉んでゐるとき、元入炭礦坑務所長吉本眞一氏に依つて同町の地下石炭試掘願ひが提出され、同町にセンセイションを捲き起してゐる

◇

市街地の地下採掘問題は現在磐城炭礦及東京市杉野周吉兩者に依つて平市域內の地下採掘並に試掘が請願され、公害地の理由で市民は斷乎反對を表示して居り、技術的見地から來る危險の可否は鎭山監督局が斷案を下すものと思ふから暫らく預るとして、湯本町に於ても入山坑務所長當時の吉本氏から同町地下採掘の申請に對して町民の大反對に遭ひ、公害地と認め入山炭礦側が自發的に請願を取消し今日に及んでゐると聞く、當時の責任者であつた吉本氏が斯ふした實情を知悉しながら、今度は個人として再び同町地下採掘を請願するに至つたことは不可解であり、半面入山炭礦に對し○○○○と謎りを受けるも又止むを得ぬことゝ思ふ

◇

同町の復湯計畫は未だ目的の湧出量に達せずと雖も既に十五立方に到達せしむべく努力を拂ひ、同町民擧げて完成を期し、一方入山炭礦側も附近の地下採掘に原因し、溫泉湧出の停止したことに間接の責任を感じて全幅的に支援、これが成功に力を綜して居るとき、吉本氏の試掘請願は復湯計畫に致命的な打擊を與へたもので一萬七千町民に同情の念を禁じ得ぬものである、吉本氏の採掘計畫は謂ふまでも無く、埋藏の資源を開發して國策に資するの理由に依るもので此の間毫末もやましい點のないものと推意するが、自治体の平和を閙す如き今回の試掘請願は、尙三思熟考の上善處すべきではあるまいか

塩豚
平市田町
三二三屋
電三二三番

吸入用酸素
純度99%

モノサシ
ハカリ
マス

トリフタマイト（ハカリトリフタマイトへ）
秤ノ取緒●錘糸●修覆致シマス

寫眞機
材料一式
開內銀局
電話二〇三番

體溫器
寒暖計

ラヂオ
理修と入買御
所談相ラヂオ定指局送放
日本放送局指定
ラヂオ相談所
HK型ラヂオ福島縣下配給所
富永ラヂオ店
電話四九六番

小株式店
店主 富永一朗
電話二七一番

石炭コークス
水野石炭店
平白銀町（電二九九）

ぬい紋と
かき紋と
諸刺繍は
平市驛前
丸新デパート內
染野紋店へ

御知らせ
今般松ヶ岡公園『尼子亭』を引受け割烹御旅館を經營する事になりました、一流の料理人を聘し時節柄格安に皆々樣の御口に召すやう精々努力致します。
▲▲特製水たき
▲▲江の島鍋
▲よせ鍋
是非御試食を願上げます
☆…御家族連御歡迎申上げます
☆…サービスとして早朝から藥湯の設備があります
平・松ヶ岡公園內（電二三〇番）
割烹御旅館 尼子亭
青柳テル

蓄膿症切根藥
快鼻湯
本劑は幾多の藥劑あると雖他藥の及ばざる良藥で、左の病症の方は一時も早く服用され快癒されん事をお奬め致します。
蓄膿症、慢性急性鼻加答兒、鼻汁多加症頭痛、肥厚性鼻炎に靈効あり。
◉其他鼻骨彎曲症並に中耳炎は偉大なる神効あり
快鼻湯製造元
責任製劑者 藥劑師 水野清一
福島縣平市一丁目 電話六九九番
水野藥局

太皷各種樂器
▽神社佛閣用太鼓
▽武德道場用太皷
▽歡送迎用音樂隊樂器（タナベ製品）
……カタログ進呈……
平市六町目
佐藤太皷樂器店
電話四八三

耳鼻咽喉科
入院自炊の便あり
大和田醫院
平市南町（電話一〇七番）

平市田町（電話五一三番）
高久病院
院長 高久忠
副院長 赤羽清
藥局長 佐竹菊雄
內科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科

大教正石島一德齋儀八十九才の高齡を以て本日午後四時廿八分死去仕候生前の御厚誼を感謝し此段謹告仕候
追而十三日午後一時自宅出棺平市營火葬場に於て神式に依り葬儀相營申可候
昭和十三年十一月十日
平市白銀町
男 石島德長
男 馬目雄長
親戚總代 石島敎長
馬目太平治
代田有光
小野義篁
藤枝雅脩
野崎滿藏
友人總代男爵

御用命は
天地屋
平市田町
三二〇番